

## 疫病、青枯病およびネコブセンチュウ抵抗性を有する

### トウガラシ台木用品種「台パワーZ」

疫病、青枯病およびネコブセンチュウは、わが国のピーマン類の栽培において、大きな被害を及ぼす土壌伝染性病害虫であり、これらを回避するには抵抗性台木の利用が有効です。そのため、農研機構では土壌病害抵抗性台木用品種「台パワー」を先行して発表しましたが、「台パワー」を台木としたピーマン接ぎ木栽培では、収量がやや劣る傾向が見られました。そこで、接ぎ木栽培でも収量があまり低下しない土壌病害抵抗性台木用品種の開発に取り組み、「台パワーZ」を育成しましたので、その概要を紹介します。

#### ☆ 技術の概要

- 「台パワーZ」は、疫病、青枯病およびネコブセンチュウに対し強度抵抗性を示し、トバモウイルス類に対して抵抗性を示す  $L^3$  遺伝子を保有します（表1）。

表1 「台パワーZ」の疫病、青枯病、ネコブセンチュウおよびトバモウイルス抵抗性

品種名	疫病抵抗性		青枯病抵抗性				ネコブセンチュウ		トバモウイルス 抵抗性遺伝子
	発病株率 %	判定 <sup>2</sup>	幼苗検定		圃場検定		抵抗性		
			発病株率 %	判定 <sup>2</sup>	発病株率 %	判定 <sup>2</sup>	被害株率 %	判定 <sup>2</sup>	
台パワーZ	0	○	22	○	3	○	0	○	$L^3$
台パワー	11	○	29	○	30	○	0	○	$L^3$
ベルマサリ	35	△	68	△	78	△	83	×	$L^3$
エース	100	×	99	×	100	×	75	×	$L^1$

<sup>2</sup> 判定: ○=強度抵抗性、△=中程度抵抗性、×=罹病性

- 「台パワーZ」を台木として使用した場合、穂木用ピーマン品種「京鈴」の収量は、「台パワー」を台木とした場合より多く、「京鈴」の自根栽培と同等です（表2）。

表2 「台パワーZ」を台木とした場合の穂木用品種（「京鈴」）の上物収量(kg/a)

台木用品種	試験年度 <sup>2</sup>			平均
	2013年	2015年	2016年	
台パワーZ	602	562	606	590
台パワー	570	492	547	536
京鈴(自根)	549	615	564	576

<sup>2</sup> 各年度とも収穫は6月中旬～8月下旬または9月上旬に行った。

#### ☆ 活用面での留意点

ピーマン類の接ぎ木栽培では、トバモウイルス類に対する抵抗性遺伝子（ $L$  遺伝子）の種類が穂木と台木で異なると、トバモウイルスに感染した時に萎凋・枯死する場合がありますので、穂木と台木の  $L$  遺伝子の種類を同じにする必要があります。